

# アマダイ通信NO. 83

(Tile fish network letter)

2012年 白い季節に

## 知人・友人各位

体を思い切り前に傾け、処女雪を飛ばし、急斜面に身を躍らせる。体を傾けた側にスキーも回転、一瞬真下を向くと急加速する。加速し過ぎればコントロール不能、足に力を入れ踏ん張り、エッジを効かせ反対方向に曲がる、を繰り返す。張りかけた太股に源泉掛流しの温泉が心地いい。スキーもビジネスも気合だ。一步先に踏み込む者が勝つ。迷ったら突っ込み結果を出す。結果が出ないと前に進めない。リスクを取らなければリターンもない。露天風呂の湯煙の向こう、雪明かりの先に星が輝く。白い季節を楽しんでいますか？

## ◎「足るを知る」民 と転生

経済の躍進著しい中国、インド。🐟が世話人をする緑の地球ネットワークが黄土高原緑化を進める山西省大同市、最近訪れたチベットのラサ、インドのムンバイも新しいビルが築かれ、真新しい車が走り回る。だが、貧しい底辺の貧困層の生活は変わらず、格差だけが広がる。この心痛む状態は、ソ連が解体、東西冷戦体制が崩壊後急速に進んだ経済のグローバル化が、人間の欲望を全開し、地上の民全体を豊かにすることで解決するのか？マルクスが説くように世界全体が資本主義経済化、つまり資本家と労働者に二極分解し、両者の対立が止揚され世界革命が成就、階級が消滅することで解決するのか？

ソ連が崩壊、一極化した世界は国境による経済の垣根を低くし、資本と労働の移動を容易にした。利潤の最大化を計る先進国資本は安い労働力を求め、中国を初めとした途上国に殺到、途上国経済を浮揚させた。結果、先進国では低付加価値労働を中心に労働条件が引き下げられ、資本の流出で経済の空洞化が進んだ。経済力を得た BRICS などの途上国は政治的発言力を強め、世界は多極化した。だが、資本は世界を自由に動き回り、各国の労働市場が資本を媒介に有機的に結びつき、世界的労働市場が形成された結果、途上国における経済格差が先進国にも移入され、先進国でも中間層が二極分解、社会の不安定化、政治の混乱が進む。その意味では世界は同質化を深めつつある。

マルクスが予言したように、世界革命が成就し階級が消滅、「能力に応じて働き、必要に応じて取る」社会、「足るを知る」社会が実現する客観的条件が整いつつあるのではないか？レーニンが説くように、団結したプロレタリア階級によるブルジョア階級への独裁という形で先ずは実現するのか？マルクスは肯定しながらもレーニンを否定するインドの巨人アンベードカルが説くように、仏教的方法で、百年、千年のオーダーで実現するのか？

「限りある地球」を考えた時、貧しくとも心豊かに暮らすキューバやチベットの人々の存在は、人間居住環境としての地球が存在する限り、人類の共存が可能なことを確信させる。だが人間居住環境としての地球の寿命は、いずれ尽きる。寿命の半分 43 億年を経た地球から自分たちの子孫が脱出、更に 43 億年後、灼熱の太陽に地球が吸収される前に、別の安住の宇宙を見つけるだけの科学の力を人類は手にすることができるか？それとも他の宇宙への物理的移動は諦め、鳥葬の庶民とは違い火葬されるチベットの僧のように、太陽の炎で焼き尽くされることで、他の宇宙への転生が可能になり、人類は救われるのか？

## ◎青春の志を胸に、故郷から世界へ！

12月19日の日曜日、能代高校同期で、一年ぶりのゴルフ。小野寺研一君が社長をする住友不動産直営の、千葉の泉カントリークラブに他に伊勢誠治、小山内与治兵衛、金子永喜、川添能夫、清水芳己、高松睦夫君が集まる。富岳亮一君も参加予定だったが、会社のコンペで怪我したということで、残念ながら不参加。サラリーマン人生をずっと続けて来た同世代は定年を迎え、雇用延長期間もそろそろ終えて、悠々自適の生活に入る者もいれば、訃報も時に聞く。そんな時に、在京の同期生8人2組でゴルフを楽しめるのは嬉しい。心筋梗塞で倒れた伊勢君もすっかり元気になり、前泊して日立から遠路参加だ。かくいう●も、治る見込みなしという、ステージⅢbの大腸がんを手術して8年になる。二人とも、父親の時代の医療水準ではゴルフどころか、生きていなかっただろう。あの時代の所得レベルでは庶民がゴルフをすることも夢のまた夢だった。

今の中国のように、高度成長を謳歌し始めていたとはいえ、日本がまだ貧しかった60年代、その貧しさをどうにかしたいと、解を社会主義革命に求め、多くの若者が学生運動に走り、「全共闘運動」が爆発、花と消えた。全共闘運動の色々な場面で能代高校の同期の諸君とも顔を合わせ、皆頑張っているのだと勇気づけられた。「若かったあの頃、何も怖くなかった」という歌があるが、怖いもの知らずで頑張った。結果、警察に7回捕まり、未決で足かけ3年中野刑務所の独房にも勾留された。リハビリに時間がかかり、長くフリーターを続けたが、40歳で会社に入り、学生を長く続けたことで培われたネットワークの広さに助けられ、50歳で営業コンサルタントとして独立。20年遅れで社会復帰したので、あと20年は働き、社会に貢献しろと言われるが、さて体が続くか？

「青春とは人生の一時期ではない。心のあり方である。志の高さ、思いの質、生き生きとした感情であり、人は年を重ねるだけでは老いはしない。ただ理想を失うことによって老いるのである」(米詩人、サムエル・ウルマン『青春』)。という言葉があるが、「故郷のために！」という想いと、「一人は万人のために！万人は一人のために！」という全共闘運動の志を胸に、死ぬまで理想を追い求め、青春したいと思う。かつての情熱の爆発が「若かったからだとは言わせない」(仏作家、ポールニザン「アデン・アラビア」[晶文社])。

幸い、ネットワークの広さを頼ってくれる方もいて、還暦を過ぎても仕事の依頼は絶えない。とりわけ友人に誘われ共に起業した、木屑6割、プラスチック4割でバイオマスプラスチックの新素材を作り、搬送用パレットに仕立てるベンチャービジネスは、搬器から容器、建材と応用範囲も広く、森林資源の有効活用と化石資源の使用抑制で、世界に貢献できる。是非成功させたい。故郷にも工場を作り、木都能代の復活にも貢献できればと思う。夢は秋田から世界へ！年明け、故郷の加藤八峰町長と一緒に、成田秋田駅ビル・ターミナルホテル社長に故郷物産の売り込み。県庁で中野秋田県副知事にも会って頂き、能代火力発電所の石炭灰を埋めるための能代港埋立・産廃最終処分場建設と大型製材工場新設の情報収拾。能代高校同級生の中田県議と軽く一杯やって、最終の秋田新幹線こまちで帰る。故郷でも新しいベンチャーを起業出来ると嬉しい。プレス成形する全てのプラスチック製品を安価でエコなウッドプラスチックで代替する世界革命へ！

## ◎造反有理！若かったあの頃

チュニジアの政変がエジプトから更にリビアに波及、リビアは内戦・二重権力状態に。

造反有理！二重権力状態の創出を！と叫んだ70年安保闘争。機動隊のジュラルミンの光る盾目がけて火炎瓶を投げ、パリケード代わりの装甲車を揺すって倒し、流れ出たガソリンに火つけ、その火の向こうから催涙弾が飛んで来て・・・。「造反有理」の祖国中国では芽の内に造反の動きを摘もうと躍起だが、独裁と腐敗、貧困からの解放、自由と民主主義を求める世界の若者に喝采したい。昨秋帰国したカイロ大学からの女子交換留学生シャヒーも、若かったあの頃の●●をしているのだろうか？今話題のフェースブックが使えれば世界中の留学生の消息も解るのでしょ

うか？  
年々盛況になる東大同窓会連合会の新年会に今年も参加。元キリンビールの荒蒔さん、JR東の大塚さん、JTの本田さん、みずほ銀行の橋本さんなど、大会社の元社長や、キャリア官僚など、功成り名を遂げた数多の先輩。血のメーデー世代や60年安保世代も、それぞれの造反有理を語る。オーム事件の時狙撃され瀕死の重症を負った、70年安保では鎮圧する側だった国松元警察庁長官には、その節はお世話になりましたと挨拶。元長官は学生時代定食屋で一緒に飯を食った同窓の中核派の最高指導者、清水丈夫をしきりに懐かしがる。今も中核派の現役指導者で、駒場で一緒に闘った曾根君の人懐っこい顔が目

に浮かぶ。  
キリンの荒蒔さんは、留学生を日本で日本人と同じ条件で採用し母国に派遣すると、母国で採用した人間と待遇にギャップができ過ぎて、人間関係が上手くいかない。進出先での現地採用を原則としている。日本への留学生と同じくらい優秀な人間を現地でも採用出来ると、興味深いお話。造反有理の若者の運動が瞬時にグローバルに伝播する今は、日本国内の留学生だけでなくグローバルに人材を求める時代なのだ。

### ◎インターナショナルな人材を！

2月半ばの土曜日夕方、寮の2年生の追い出しコンパに、三鷹クラブからカップ寿司6人前6桶を差し入れ、華屋与兵衛で二次会。40人以上の若者とタニマチを楽しむ。12時近くタクシーを拾い、吉祥寺から各駅停車で一眠り、東京駅からタクシーで帰宅。留学生と盛り上がり、翌日のスキーはガーラ湯沢一人旅を止め、7人乗りオデッセイで宝台樹へ。世界の若い頭脳6人預かり、責任重大と安全運転。カイロ大と南京大の女子、メルボルン大の男子は雪を見るのも初めて、スキーのはき方から教えるが、自分がスキーを楽しめない。スキースクールに入って貰う。一応リフトに乗ってボーゲンで滑れるようになり、蕎麦屋の婆ちゃん手作りの漬物と地酒も楽しめたようだ。スキー終え、意外と長湯の留学生と温泉で裸の付き合い。露天風呂も初体験の後、関越道に乗ると水上の先から大渋滞。気が付けば後の座席で小柄な南京娘がウェリントンの長身の男の子に、トロントのグラマーな中国娘がパリの男の子の肩に顔寄せて眠る。朝9時に拾った東所沢の駅で夜10時半に、若い世界の頭脳と無事別れ、再度高速に乗る。多少は人のために役に立ちたいという気力と、最上級のアイスバーンも一気に滑り降り、気分よくリフト10本分滑った後で、5時間以上一人で車を運転出来る体力、スキーの腕にも、まだやれると自信を持つ。

NHK エンタープライズ社長から NHK 副会長に栄転した寮同期小野直路君に、シドニー大学からの交換留学生で、日本に戻り、歌手デビューした歌姫サラ・オレインを引合わせる。担当者の耳と目に適い NHK でデビューさせて貰えれば嬉しい。サラと夕食に牛タンのネギシに入る。初体験の麦トロと生グレープフルーツサワーが美味しい、はまりそうと歌姫。J ポップよりクラシックに近いサラの歌だが、三菱商事の CM に使われている。

歌姫の美形が活かされないのは残念だが、翻訳で生業を立て、近くコピーライターでもデビューするという。彼女が英文に翻訳した童話集を携行、三菱商事の CSR でカンボジアの子供達と交流もするという。去年帰った交換留学生 4 人が東大大学院に再留学、ノルウェーの男の子とフィリピンの女の子もフィリピンで結婚式挙げ、再来日の予定とのこと。日本国民は自信喪失気味だが、留学生には日本は人気だ。安全、安心、便利で綺麗、美味しい日本にもっと日本人は自信を持ち、グローバルに人材を集めるべきだ。

NTT グループの電気工事会社関連の社長を務める干場寮委員会の宮脇良秋副委員長が、会社の CSR の講演会講師に、中国黄土高原の緑化を進める、●の前の寮委員長の NPO 法人「緑の地球ネットワーク」高見邦雄事務局長を呼び、●も二次会までお相伴する。話題は中国とジャスミン革命へ。革命の裏には情報と経済のグローバル化、フラット化がある。グローバル企業は世界中の大学や人材の点数評価、序列化も要求する。それは人間の評価の一面化、競争の激化、格差の国際的な伝播も意味する。否応なく進む大学のグローバル競争の激化に対応するためにも、若い寮生に経験を伝え、留学生や先輩と交流する場をつくりたいと提案すると、阪和興業の北社長に続き、宮脇社長も賛同、協力して頂くことに。企業の人材の獲得にも利する。600 人の駒場の学生が在籍、1/3 ずつが女子と留学生の寮で、6 月にでも進学と進路を巡るシンポジウムと交流会を、寮生と共催したい。広く賛同する企業の協力を求めます。

### ◎小沢起訴と大室三兄弟

検察審査会による小沢一郎の強制起訴が新聞各紙の一面トップを飾る。小沢が有罪になるか否かは別にして、ひとつの時代が終わる。田中角栄型の、再開発の許認可を含む公共事業に絡む利権に群がる業者と、そこから上がる金で支配する政治。自民党の下野と小沢の起訴で、角栄型の金権支配の政治が終わり、更なる政界再編が始まるか？

検察審査会の決定を受け、小沢を起訴した検察官役の指定弁護士に見慣れた顔。東大学力増進会のアルバイト仲間村本君の写真。学増は東大闘争で敗れ、傷ついた者が疲れを癒し、再起を期すための溜まり場だった。多くの者が弁護士や医師、学者、作家、官僚として巣立った。●がその最後の幕引きをして、40才でサラリーマンになった。村本弁護士の隣、三人の指定弁護士の中央に駒場共闘の仲間、●の七回目の逮捕と同じ件で逮捕・起訴され、一緒に裁判を闘った大室英二君の弟の大室俊三弁護士。「あれだけ強大な力のある人を相手にしても、誰も身の危険を感じることがない。いい国だと思いました」という言葉が印象的だ。

大室英二君はウダウダと30才まで学生をした●と違って、潔く駒場の基礎科学科を中退、電気工事師の資格を取り、一人で電気工事業を営む。三兄弟の長兄は三井不動産副社長、年明け再度お会いして頂き、ショッピングモールでの専用水道事業の提案など、色々お世話になる。社会構造の硬直化、階級の固定化が言われながらも、権力に激しく歯向かった「兇状持ち」でも社会復帰、中枢と交わることができる柔らかい国、とまだ言えそうだ。

### ◎●の子ベツ紀行(上)

昨秋、シルバーウィークの子ベツツアーの紀行文、遅ればせながら送ります。

#### ① 雲海の向こうに高山が見え、毛沢東が現世と来世をつなぐ？

成田発中国民航機で北京へ。北京オリンピックのため作られた北京空港の新しいターミナルは広く、シャトルで移動する。空港近くのレストランにバスで移動するが、酷い渋滞だ。オリンピックを経て更に酷くなったようだ。塩辛い北京料理のせいか北京ビール大瓶30元（1元15円）一本ずつでは足りず、250元の5年物の紹興酒を頼む。

臨空の新しいホテルは広く、冷蔵庫、湯沸し器、バスタブの他にシャワーブース、バスローブもあり、快適だ。翌朝は7時半の飛行機（時差1時間）で、天空列車に乗車する西寧に向かうので、5時半ホテル発。一風呂浴びてバタンキュー、4時過ぎに起きて湯を沸かし、味噌汁をすする。北京までの二階建てジャンボに比べるとぐっと小粒な一列5席の民航機が西寧へ近づく。生憎の雲海の遥か向こうに、チベットと外界を隔てる高山の頂きが切れ目なく繋がる。青海はチベット世界の始まりだ。

西寧空港は誘導路を兼ねた滑走路が一本とシンプルだが、ボーディングブリッジが横付される。周りを大型ダンプが走り回り、重機が唸り声を上げ、拡張工事が進む。終われば国際空港に姿を変え、日本とも直行するという。チベットに繋がる青蔵公路で市内に入ると高層マンションが林立し、立ち並ぶクレーンが背比べする。西部大開発の号令がかけられてから、急速に開発が進むという。信号の少ない道路には真新しい外車が溢れ、三輪自動車も間を縫い、歩行者は命がけで渡る。青海省の人口が500万、西寧が200万。郷土家庭料理という薄味のお昼を温いビールと一緒に味わった後、タール寺というラマ教（正しくはチベット仏教）の名刹を二時間ほどかけ見学。

金色に輝く本殿は文化大革命後に再建されたという。輪廻転生を信じ、今生の幸せと来世の転生を願う敬虔なチベット仏教徒は、回すとお経を唱えたことになるという、お経が納まった筒型のマニ車を熱心に回し、お堂の前で順番待ちで五体投地のお祈りを2時間、3時間と続ける。金色の仏陀や観音、彌祿菩薩、生き仏の仏像の前には植物油製のバターで明かりが灯され、すえた匂いが漂い、賽銭や供物が積まれ、5百人の僧の生活を支える。伽藍の前の岩にはバターが塗られ、毛沢東の顔が刷られたお札が貼られ、現世の幸せと来世の転生を願う。マルキストで無神論者の毛沢東が、ラマ教徒の現世と来世をつなぐ！？

## ②西寧に波の花飛ぶ！？

タール寺の後はお決まりのお土産屋へ。ゆっくりメールで紀行文を打てると喜ぶが、中心市街地で近くにデパートの王府井（ワンフーチン）があり、一階にスーパーもあるので、がら空きの土産物屋から、一人抜け、二人抜けして最後の一人になり、店員に身振り手振りで追い出される。仕方なく命がけで道路を横切り、公園のベンチでメールを打つが、日射しの厳しさにスーパーに逃げ込む。日本のスーパーと同じような構えで、果実入りのゼリーが4元、地ビールが6元、サントリーモルツが20元、キリンラガー500ml缶28元。日本のビールが売られ、地ビールの数倍の値段だ。

夕食のレストランの脇を川が流れ、流れは堰を泡立てて落ち、波の花が飛ぶ。飛行機から見ると川面に黄緑の帯が描かれていたので、布袋草にしては色が薄いと思ったが、排水垂れ流し、富栄養でアオコが発生しているのだ。上海まで流れて揚子江になるのか？渤海湾に注ぐ黄河になるのか？上流の西寧にして既にこの汚れた。

夜も地元家庭料理というが、辛く味もきつい。昼と夜のどちらが青海の郷土家庭料理か？昼の広東風が口に合うが、極辛料理で有名な四川省の隣だから、夜が青海か？テーブルに

大ビン2本の温いサービスビールだけでは足りず、紹興酒を頼むがない、白酒もないという。仕方なく冷えたビールを一本追加注文する。10時40分の天空列車の出発まで間がある。ガイドお勧めの足ツボマッサージ、一時間3千円でほとんどのメンバーが時間潰ししてくれたので、僕もそこのロビーでメールを打ち時間を潰す。

上下二段の一等寝台個室の床下にはスーツケースを収納出来ず、奥行き190cmの枕元に置くことにして、二階に死ぬ思いでスーツケースを引き上げると、廊下の天井の奥が空洞になっていて、スーツケースがすっぽり納まる。隣室の女性陣のスーツケースも引き上げてやる。共同作業で意気投合、中学生の頃、手をつないで一緒に躍ったフォークダンスのオクラホマミキサーを思い出しながら、団塊世代で高校三年生を合唱。男四人、一階で車座になり、ガイドの忠告を無視、寝酒に持参の日本酒を振る舞う。

### ③「キオスク」のビールはよく冷えて

4人で500ccと飲み足りなかったせいか、2、3度目を醒ますが、その間にも高度2千m台から3千m台へと天空列車は力強く登る。空調も万全だ。7時過ぎまでよく眠るが、外は暗く、時折通り過ぎる灯りに人の住む気配を感じるだけだ。北京から遠く西域の西寧やラサまで2時間ほどの時差があるのだから、アメリカのように東部、中部、西部と複数の標準時を採用した方が、健康と生活のリズムにはいいと思うが、標準時は北京時間一本だ。経済効率を追求するのか、多民族国家の不安定さの裏返しか？単なる漢民族の驕りか？

明るくなるとダンプが走り、重機が置かれた、大きな水を張った田んぼの様なものが続く。田植えにしては時期外れと、よく見ると白い地面が続く。塩の結晶か？チベット高原には塩湖も多いから、塩田かも知れない。トイレは洋式と中国式のしゃがんで跨ぐのと二つあり、最初の内はまあきれいだ。日本の新幹線や飛行機と同じバキューム式だし、車外に垂れ流しだから紙も一緒に流してもいいが、用済みの紙は脇の籠に入れる。幸い高山病に悩まされる者もなく全員無事目を開け、8時半から食堂車へ。日本の新幹線に食堂車がなくなって久しいが、2千キロの旅に食堂車は必要だ。旅の情緒を満喫出来る。

高度2830メートルのゴルムド駅に、高山用の三重連の機関車の付け替え作業で20分ほど停車する。ホームに売店があり、昨晚飲んだ地ビール金黄河が1缶5円で売っている。思わず手が伸び、昨夜の寝酒の不足分を補う。食堂車の辛い青海料理はつまみにいい。冷蔵庫で冷やしている訳ではないのに、昨日のレストランの温いビールより美味しい。

### ④チベット支配の生命線を行く

青い空と雪山の間から白い雲が湧き上がり、羊とヤクの群れが薄い草をはむ、見渡す限りの荒野を天空列車は進む。雨上がりの水を集め、かさをました泥の河トト河に沿って、青藏公路と時に交差しながら進む。所々満々と水を湛えたダムの水しぶきを横目に、険しい山塊を縫って大きく湾曲しながらゆっくり進む。並行する三台のトヨタのランドクルーザーと抜きつ抜かれつするところをみると、時速百キロくらいは出ているのだろう。

乗用車、四駆に混じりロングボディの貨物自動車もあえきながら走る。あちこちで道路工事が行われダンプも行き交う。アスファルトプラントの前ではダンプが列をなす。厳しい自然条件の高地で、地下資源豊富なチベットを中国に結びつける交通インフラの維持は、中国政府にとって至上命題とは言え、手間暇がかかることだ。鉄路は特急の他に鈍行も、

客車の他に貨車も走り、中国とチベットの人的、物的結びつきを強める。一定間隔で青と水色に塗り分けられた兵士の詰所があり、不測の事態に備える。

高度 4195m のユイチューフォン（玉珠峰）駅の辺りでは 6178m の玉珠峰を初め、万年雪を頂いた 6 千メートル級の高山が見える筈だが、生憎雲に隠れて山頂は見えない。それでも雲の下に見える雪溪の美しさに、その上を想像する。次は標高 4484m のウォンクン（望昆）駅。ココシリ（可可西里）自然保護区内で毛深い牛とも言うべきヤク、鹿などの野生動物は顔を出してくれない。雪を頂いた 5、6 千 m 級の昆倫山脈が遥か遠くに見える。かつて新疆のウルムチから敦煌までの飛行機で窓越しに見た、あの雪山だ。4611m のフウドンチュエン（不凍泉）では沿線最長の高架橋、「清水河特大橋」を渡る。左前方に随分立派な高速道路のコンクリート橋があるなど見ていたのがその橋だった。湯桧祖と湯沢の間、谷川岳をグルット回って上下するように、巨大なループを描いて、鉄道世界最高地点を目指す。4636m 地点のウーダオリヤン（五道梁）駅からは永久凍土地帯に突入。9 月初め頃から雪の降る場合もあるというが、9 月も下旬の車窓はうっすら雪景色だ。

4958m 地点のジャンクードン（江克棟）駅付近で、ツンドラ地帯にあるトンネルとしては世界最高地点にある風火山トンネルをあっという間に通過。4547m 地点のトト河駅を通過して少しで長江、黄河、メコン川の三大大河の源流トト河の、更に源流を渡河。深山幽谷の泉から流れ出す日本の源流のイメージとはほど遠い。遠望する四方の氷河から溶け出した水を集め、広く四方、八方に走る。4721m のエンシーピン（雁石坪）駅ではゴルムド以来の町並みの向こうに、万年雪に覆われた高山の絶景が続く。雨の夕方、タングラ（唐古拉）駅手前で 5068m の鉄道最高地点を通過するが、記念碑には気付かず。最高地点の駅を通過して、三度目の食堂車へ。天空列車は再び闇の世界を走り、10 時近くにラサ着。

### ◎勝部邸でのクリスマスイブに続き、🍷事務所で新年会

イブの夜、原宿の勝部日出男君（S43年入寮）の豪邸で、相手のいない寮生は全員集まれ！と30人ほどで、豪華クリスマスパーティ。ところが、前々寮委員長の工藤君と前委員長の今岡さんは、相手に恵まれたか？欠席。そこで年明け、寮生とロートル4人の15人で、🍷事務所で新年会。何故かウッドプラの原島社長まで飛び入り。おでん温め、オリジンのオードブル、ドミノのピザ、寿司を肴に、若い諸君と談論風発。昔話交え、経験交流と交歓。次代担う若い諸君の勉強と仲間作りに役立てば嬉しい。

参加者は、野崎 怜香（2010年入寮、長岡、文Ⅲ）・浅野 珠生（文Ⅲ）・渡邊 聡（08年入寮、理学部数学科、秋田高校）・満重 佑輔（08年入寮、理学部化学科）・畠山 糧与（文Ⅲ）・今岡 奏帆（10年入寮、富士宮、文Ⅰ）・佐藤 俊秀（09年入寮、工学部電気・電子科）・山口 裕（理Ⅰ）・楊 楊（2010年入寮、中国、理Ⅱ）・石田 翔太郎（10年入寮、理Ⅰ、広島県尾道北高校出身）・熊谷 壮一郎（10年入寮、理Ⅱ）

※:昨日はありがとうございました。

2年の佐藤です。新年会コンパありがとうございました。美味しい物を沢山いただき、何よりも昔の様々な経験談は非常に楽しく、ためになりました。その行動力などは見習わなければいけないと感じました。残り少ない三鷹寮生活、せいぜい楽しみたいと思います！

※金曜日はとっても楽しかったです。お話をあんなにしっかりうかがったのは初めてで、とっても勉強になりました。想像のつかないようなお話ばかり。現状が当たり前に思え

ていたけど平和というか窮屈というか…そんな時代を生きてるんだなど。(今岡 奏帆)

## ◎「病気の一生、借金的一生」“戦後日本の教育と医療”

### ・・・三鷹クラブ第95回定例懇談会のご案内

今回の講師は、東北文化学園大学理事長の小山昭夫氏（S28年入寮）です。昭和28年、駒場の講義が始まってほぼ一か月、東寮の我々の蚕棚の一つが埋まらなかった。異変でもと思い始めた時に小山さんが現れた。一年生なのに大人びた雰囲気漂わせており、初対面の時から、古参の二年生までが「小山さん」と呼び、それが未だに続いている。

小山さんは、小学校5年生のときに骨髄炎を患い、6年生は殆ど授業に出られなかったよし。高校では肺結核にかかり、長い療養生活の後、3年遅れて理科二類に入学した。幼少で大病を患った人には、読書家が多い。小山さんも古今東西の文学書から、物理学、数学、特に博物学関連の書籍を読み漁ったようだ。我々の部屋には、理化学辞典の化学関連の項目をそらんずるといふ奇人が3人もいたが、小山さんは3奇人の最先端生化学談話に加わり、理一の仲間で行っていた「解析概論」の復習にも顔を出し、またフォークナー、プルースト、ジェームス・ジョイスに始まり「長靴をはいた牡猫」「エレホン」「阿呆物語」などに至る文学談義の中心になり、病氣療養時の読書の幅の広さと、深さに驚かせた。駒場の5時間目のラテン語やギリシャ語の講義に真面目に出席していたが、西洋医学の成り立ちを学ぶには必要だと語っていた。

小山さんが駒場で永く過ごしたのは学生診療所だったはず。当時の高貴薬、ストレプトマイシンのおかげで、結核を克服したようだが、それでも休養のために診療所を訪れていた。そこで、軽い体の不調を難病と思い込み、悩んだあげくに訪れて来た学生が医師とかわす会話が、静養しているベッドにまで聞こえ、そのことが医師になる決意を強めさせたと聞いた。教養学部時代に結核が完治せず、医学部受験をあきらめている。病状が落ち着いた昭和35年によく医学部に入学した。しかし、医学部の卒業は昭和46年である。在籍8年以内が内規のはずだが、休学、退学、復学を繰り返しながら、10年かけて卒業できたのは医学部事務官の好意によるものという。この長い在学期間の学友との交わりは、4年で卒業する医学部学生には得られない体験である。また、学生であった昭和40年に病院を開設したので、病院経営を行いながら基礎医学の勉強ができるという貴重な機会を持っている。昭和50年には、革新的構想を取り入れた新病院を建設した。記念式典で、ある国立大学教授が「これで私も安心して病気になれる」と挨拶されたのを覚えている。

昭和54年には学校法人を設立し、平成17年からは東北文化学園大学の経営に参画している。また、「アルコールと作家たち」などの翻訳を行っている。病気を梃子とした小山さんの臨床医師、病院・大学経営者としての奮闘記と、日本の医療と教育が直面する問題について聴けることを期待したい。(昭和28年入寮 木下親郎)

日時：平成23年3月15日(火) 18時30分～21時(終了後二次会あり)

場所：大阪弥生会館(大阪市北区芝田2丁目4番53号 電話06-6373-1841)

会費：5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)

申込先：平賀・干場 (有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp